

教学半也



令和5年12月19日
No.8

全読者対象

【特集】探究する授業② ～社会科の実践から～

先生方のイメージする
「探究する授業」※

資質・能力の育成

子どもが



問いや願いを
もって



試行錯誤して



繰り返し
働きかけて



自分なりの答えを
見つけていく



※R5南信教育事務所だより No.3
「【特集】探究する授業①」
先生方の対話より

教師は



- 児童生徒が教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることを意識
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

2学期は、各校での公開授業や授業研究会を通して、授業改善について語り合う機会が多くもたれたことと思います。「探究する授業」という窓口から、授業改善の実際について考えてみましょう。

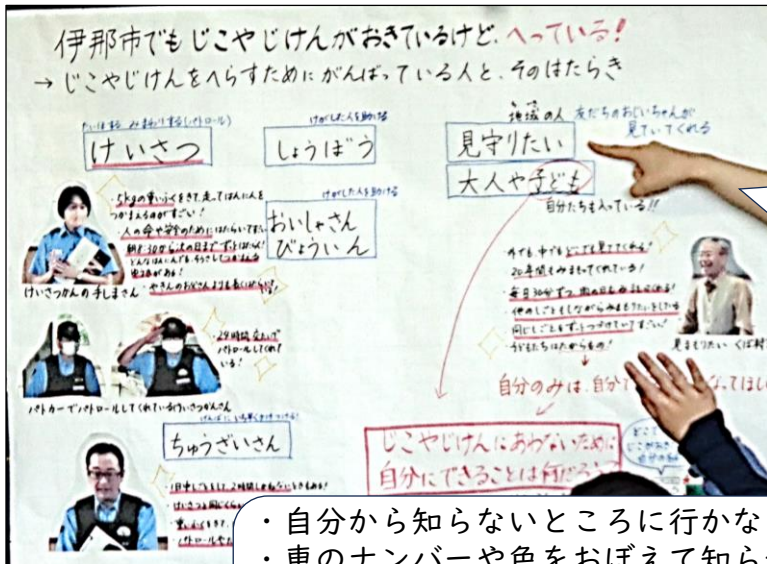
【小学校3年】話し合いをもとに自分にできることを決め出したAさん



教師の手立て

- これまでの学びをまとめた掲示物の掲示
- 話し合いに集中できるグループワーク

伊那市立東春近小学校 奥山加蘭先生は、小学校3学年「地域の安全を守る働き」における単元最後の場面で、安全な暮らしを守るために自分にできることを子どもが考える場面を設定しました。



①安全に関わる様々な機関の連携をまとめた掲示物で、本時の学習問題を確認する

事件や事故を減らすために、警察や消防の方、駐在さん、見守り隊の方など、たくさんの方が力を合わせてがんばっていた。自分にできることは何だろう。

②メモ係を1人に決め、全員でアイデアを出す



Aさん

- ・自分から知らないところに行かない
 - ・車のナンバーや色をおぼえて知らせる
 - ・寄り道はしない
 - ・自転車で友だちと学区外へ行かない
- ぼくは4個も考えられたよ。



Aさん

③メモに書かれた自分や友達の考えを「地域のため」の視点から見直す

遊びに行く時はお家の人に言ってでかけるというのは、警察の人も言っていたな。でも、もしぼくが迷子になったら、警察の人に迷惑をかけちゃうかもしれない。

④自分にできそうなことを1つ選ぶ

大人も子どもも、自分が気をつけることが大事。迷子になったらいけないから、絶対に寄り道はしない。

Aさんは、グループでアイデアを出し合ったり、地域の安全を守るという視点で比べたりすることにじっくりと向き合えたことで、自分の行動を決め出せました。子どもが自分自身の行動に、学んできたことを生かせるか判断するような場面では、考えることに集中できる時間や場を設けることが大切です。

【中学校地理】新たな視点を得て自分の考えを見直したBさん



教師の手立て

●パフォーマンス課題の提示

●同地域・異地域でのグループワーク

茅野市立永明中学校佐藤守先生は、中学校地理的分野「アジア州」の単元導入時に、パフォーマンス課題を提示し、生徒が課題に対する考えを自らまとめてくことができるよう、見通しをもたせて単元を展開していきました。

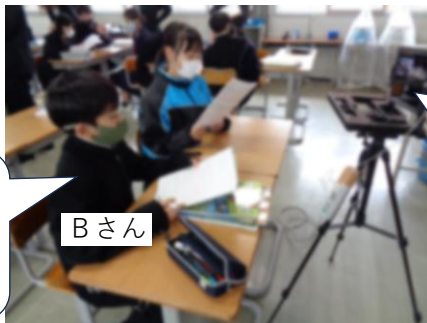
① (第1時) パフォーマンス課題を把握し、必要な情報を収集、整理・分析していく単元の計画を立てる

【パフォーマンス課題】

E社の社員として、アジア州の地域から次の進出先の候補を考え、プレゼン資料をつくらう！

「東南アジア」は発展の勢いがあって、機械類の輸出にも力を入れている。ASEANによって日本企業の進出もあるから、第一候補！

② (第7時) 同地域を選んだグループで理由を紹介する



Bさん

ぼくが「東南アジア」を第一候補にするのは、人口の増加にも勢いがあるから、働く場を求めている人が多いから。賃金を安くできる。

③ 異地域のグループで理由を紹介し、質疑応答する



Bさん

インドの人は数学や英語に強い！12時間の時差を生かして、アメリカとIT産業で連携している。進出するなら「南アジア」！

確かにインドでは、効率よく仕事を行うIT産業で経済発展をしていた。人材も優秀で豊富。「南アジア」にしよう。

④ 候補地域を最終決定する



Bさん

Bさんは、雇用の視点や先端産業の視点による地域の強みを友達から得たことで、アジア州全体を俯瞰して自分の考えを見直していきました。子どもが多面的・多角的に事象を捉えていくには、知的好奇心を動かされる課題や個人追究、共同追究の場面を、単元を見通して位置付けていくことが大切です。

子どもたちは、自分の願いの実現や問いの解決に向けて、調べてきたことを比べたり、関連付けたり、統合したりして自分の考えを繰り返し見直しており、探究する姿の一端が見られたように思います。これは、教師が教材を吟味し、単元や1時間の授業のねらいを定め、ねらいの達成に向けて子どもがどのように力を発揮できるようにするのか繰り返し検討してきたからでしょう。教師には、こうした教材研究の充実と探究を指向したマインドが欠かせません。皆さんの学校でも、探究についてぜひ話題にしてみてください。

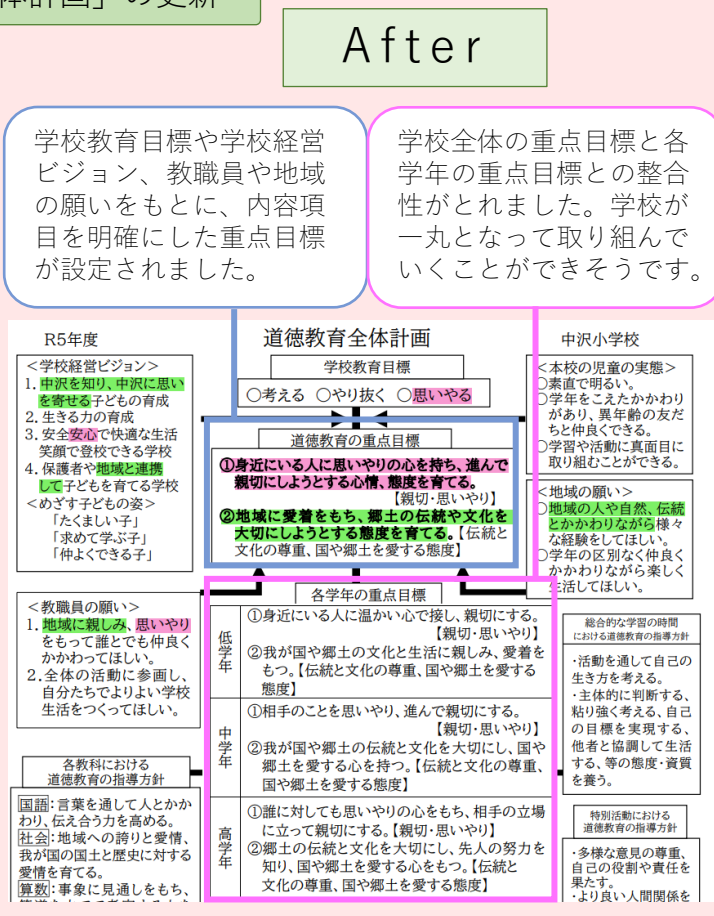
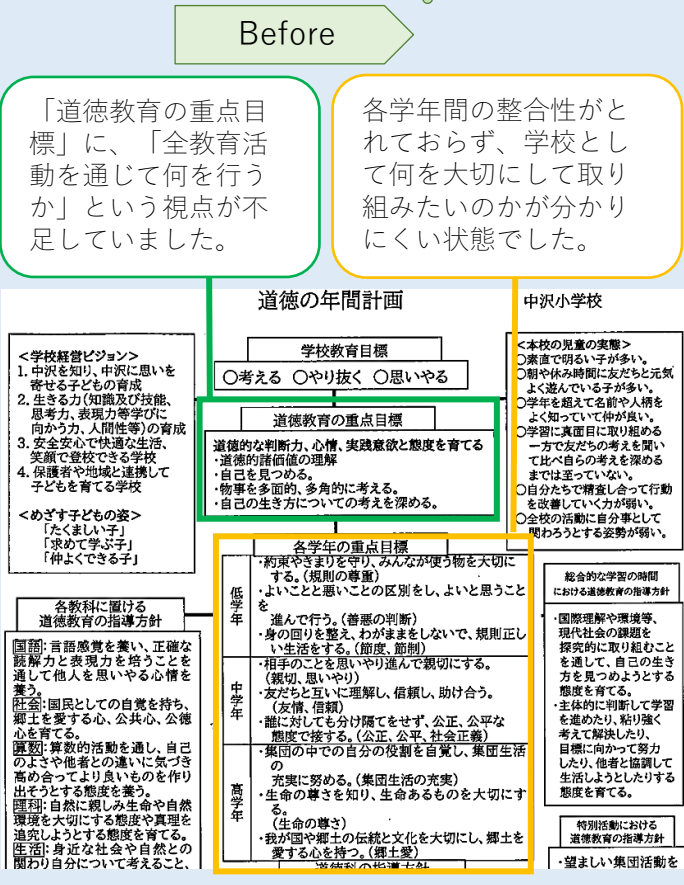
道徳科に携わる先生方対象

自校の道徳教育の充実のために

「生きて働く指導計画」に更新した中沢小学校の先生方

駒ヶ根市立中沢小学校は、上伊那地区教育課程研究協議会の道徳科の会場校でした。研究部会の先生方は、授業づくりについて考える中で、指導計画の重要性に気がきました。そこで、全校の先生方で協働して、自校の道徳教育に関わる資料を見直すことにしました。

「道徳教育の全体計画」の更新



「各教科等における道徳教育に関わる指導の内容と時期（別業）」の作成

【各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期 1学年】

内容項目のキーワード	国語科	算数科	生活科	音楽科	図画工作科	体育科	特別活動
公正、公平、社会正義						運動会(6月) ※勝敗を受け入れる	
勤労、公共の精神							たてわり清掃(年間) ※掃除に真摯に取り組む
家庭愛、家庭生活の充実			わたしとぞく(12月) ※家族への愛情をもつ				
よりよい学校生活、集団生活の充実							係活動(年間) ※仕事に責任をもつ
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	昔ばなしを読む(11月) たぬきの糸車(1月) ※音の道具を知る		地域のさんぽ(年間) ※地域を知る・人と関わる せつぶん(2月) ※地域の行事を知る	手遊び歌(4月) 音楽会(11月) (保育園交流)	働く車の絵(9月) 地域の方の協力		ぶどう狩り(9月) 焼き芋会(12月)
国際理解、国際親善							
生命の尊さ	ずうとずっと大好きだよ(2月)※ツットの命		秋探し・虫捕り(10月)				
自然愛護			アサガオ(5~10月) 野菜づくり(9~12月)				

各教科等で、いつ、どのように道徳教育を行うのかを明確にするために「別業」を作成しました。作成したことで、各教科等と内容項目とのつながりが明確になりました。

別業を作成することを通して、いつ、どこで、何を扱えばよいのかははっきりしました。



中沢小学校の先生方

まだ作成途中ですが、教卓の近くにこの用紙を掲示し、関連に気付いた時にメモをして、年度末までに仕上げたいですね。

全てを埋める必要はありません。まずは、自校の重点目標にした内容項目から始めてみましょう。

自校の全体計画が、道徳教育で育てたい子ども像の具現に向けての羅針盤の役割を果たしているか確認をして、「生きて働く指導計画」に更新をした中沢小学校の先生方の取組に学びたいと思います。2学期末から3学期にかけては、今年度の実践を振り返り、次年度に向けて見直しをする時期です。道徳教育の充実に向けて、各学校でも全体計画の確認と整備を進めていきましょう。ご希望があれば、道徳科の指導主事がお手伝いをします。

ともに学び 力をつける 「明日に生きる授業をめざして」

諏訪地区・上伊那地区 授業づくり研修会

経験1年から
5年程度の読者
講師の皆さんを応援
して下さる読者対象



今年度最後の授業づくり研修会が行われました。これまでに計4回（第1回5月、第2回6月、第3回7月、第4回11月）開催され、延べ104名の先生方が参加されました。さて、参加者の先生方は、実際に研修会に参加してどのような感想をもったのでしょうか。今回は、参加された先生方の声を紹介します。

仲間とともに学ぶ



古典に親しむとは、今の自分の生活と比較しながら考えていくことが大切だと思いました。「昔の人のものの見方は、今に通じるものもあれば違うものもあることがおもしろい」と生徒が思う授業にしたいと思いました。（上伊那A先生）

バスケットボールの単元について学びました。今後、練習中にゲームの要素を混ぜたり、球技が苦手な生徒が積極的に取り組むことができるようにするには、どう工夫したらよいかを考えたりしながら、様々な視点で授業を組み立てられる気がします。（上伊那B先生）

綿密な教材分析



ともに悩み、考える



資料から読み取れることは十人十色です。こちらが想定していた読み取りとは異なるものが挙がることも多く、教師が当たり前の解釈であるかのように授業を進めることは、子どもを置き去りにしてしまうことを学びました。（上伊那C先生）

教師のモデルから意識して欲しいことを共有するなど、どう取り組むかの視点を与えることの大切さを教えていただきました。来週からもsmall talkをがんばりたいです。（諏訪A先生）

教科の専門性を高める



学級の子どもたちが、二等辺三角形を見て、「ハンガー」「山」、正三角形を見て、「おにぎり」と言いそうだと考えました。「教える」という教師の目線ではなく、子どもたちの学びの目線に立って考えていくことができる授業にしたいと思いました。（諏訪B先生）

主体は常に児童・生徒



理科の授業の時間配分や単元の見通しをもつ大切さを学びました。単元の見通しをもち、ポイントをおさえて授業を計画していくことは、授業のメリハリをつけることにもつながると感じました。（諏訪C先生）

まとめの時間には、南信教育事務所の河手課長から、「研修し続けている自分をほめてほしい、足りない自分を感じて求め続けてほしい」という言葉がありました。これからも南信教育事務所は、授業づくり研修会において、経験1年から5年程度の先生方を全力で応援します。「明日に生きる授業」を、ともにつくっていきましょう。授業にかかわることについて、いつでもご相談ください。

これからの 信州教育を 考える

学びの改革
フォーラム
ながの

1.26 Fri

講演

信濃教育会 前会長

後藤正幸 氏

「信州教育について」



文部科学省初等中等教育局
学校デジタル化PTリーダー

武藤久慶 氏

「GIGAスクール構想に
おける新たな学び」



実践発表 学びの改革パイオニア校

ポスターセッション 中核教員研修参加者

総合教育センター講堂
10:00～16:00

長野県教育委員会学びの改革支援課